

	<p style="text-align: center;"><b>エッセイ</b></p> <h2 style="text-align: center;">相撲とベースボール</h2> <p style="text-align: center;"><b>SCE・Net 弓削 耕</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>E - 15</b></p> <p>発行日 2009.03.29.</p>
---	--	---

ダルビッシュ投手の投げたスライダーが外角に決まり、バッター空振り、これで日本野球チームの WBC (World Baseball Classic、世界野球選手権) での 2 連覇が決まりました。難しいと言われていた連覇を達成できた原監督以下の選手一同、関係者にお祝いをしたいと思います。不況続きの世の中で、久し振りに日本中を明るく沸かし、多くの人を元氣付ける快事でした。

ベースボール発祥の地アメリカで、キューバ、アメリカ、韓国の強豪を倒しての優勝であり、前回の優勝が運に恵まれた幸運の勝利であったのに比べ、堂々と勝ち取ったものです。試合は勝って何ぼ、企業は儲けて何ぼ、勝てば官軍です。マスコミも負け犬は容赦なく叩きますが、勝者には評価は甘くなります。

サッカーに比べると、歴史が浅く、競技人口の数も少なく、その広がりも狭いためか、WBC は今ひとつ盛り上がり欠けています。開催を主催するアメリカも、球団経営者がペナントレースに重きを置き、選手を厳しく管理するので、出場選手も怪我をしたり、調子を崩し、ペナントレースで成果が出ないと元も子もなくなるので、当然のように力が入りません。大会の意義や仕組みが今いち不明瞭な上、試合に勝てないこともあって、あれほどベースボール好きなアメリカ国民も一体になっては応援に熱狂しません。

日本では北京オリンピックでの後遺症から監督人事が難航し、就任して欲しい人は健康問題や若さなどに難点があり、やりたがっている人は手腕や人柄に問題があり、やっとのことで監督が決まりました。監督も若い方が澁刺としていて、若い選手の気持ちも分かりやすく、意思疎通も上手いくようです。企業経営者やシニア技術者も老害は癌になるし、発明発見や研究開発も若い人の自由で独創的な発想が原動力になります。

また代表選手を決めるのがひと苦勞、ペナントレース開幕直前に行なわれるので、体調を整えるのが難しいとか、故障持ちの選手がいたり、選手を派遣しない球団も出てきたり、四苦八苦して決まりました。しかし選ばれた選手はエリートであり、一流選手として認められたので、選手としては誇りを持ってました。出場 28 選手に絞り込んだときに選から洩れた選手の無念さも大きかったようです。選抜の時点での体調を最大限に考慮したので、以前のように、怪我を承知で無理して選手を選ばず、後に悔いを残さぬようにしたので、首脳陣の決定は分かりやすかったし、納得できるものでした。スポーツをするにも、仕事をするにも健康第一です。高い目標達成のためには情に絡んだお友達人事などはするべきではありません。こうしても残念ながら故障者は出ましたが、試合中の出来事であり、スポーツに怪我は付き物なので、怪我した選手は気の毒ですが、ある程度は止むを得ません。

各国とも有力選手が出場を簡単に辞退してしまうのは、サッカーワールドカップやオリ

ンピックでは考えられないことです。それだけまだ権威ある大会と見られていないのでしよう。金銭的メリットがないのに、怪我などすればシーズンを棒に振ってしまうなど、かなりの打算も働いているのでしよう。この中では、国の統制の強いキューバを除けば、日本と韓国が比較的眞面目に対応していたようであり、それに比例して良い結果を出しました。努力した者が報われたようで気持ちの良いものでした。

アメリカは力さえあれば勝てると思ったのでしようか、日本や韓国に比べてチーム内はばらばらでした。逆転サヨナラ勝ちをしたので、まとまりのあるチームかと思いましたが、ワールド負けはするし、エラーは多い、外野に飛んだ球を追わず、草野球的などころもありました。高給選手だけで強いチームは出来ません。

キューバは力はあるが、小技が効きません。160km/hの球を投げてもコントロールが悪いと良いピッチャーとは言えません。打つことが好きな選手が多いようで、パワーは抜群です。力と力の勝負には強いでしょう。

団体競技は組織力を十分に発揮することがポイントです。強いリーダーがいて、1人1人が高い能力を持ち、強固なチームワークが発揮できる組織が強い。この組織をベースに小技をからめ、綿密な作戦を立て、緻密な野球をするのが、日本と韓国です。韓国はその上、体格の良い選手が多く、力が強く、当ればホームランという選手も多いので、日本も苦戦しました。短期決戦では好投手が1人、2人いると良い成果を上げることが出来ます。全体として選手層の厚さでは日本の方が上ですが、今後、かかる大会では日韓は好敵手になるでしょう。サッカー、フィギュアと合わせて、当分競い合うのでしよう。

日本チームは1月の共同生活のなかで、まとまりのある良いチームになりました。監督、コーチの指導力が良かったのか、チームリーダーが良かったのか、日本人の特徴である組織力が発揮されました。これも勝ち進んでいき、優勝という使命感を皆が共有できたからでしょう。競技チームは勝っていけばチームはまとまり、強くなり、企業は利益を上げていけば求心力も働き、伸びていき優良企業になります。個人の力を主に伸びていき、力のある者だけが良い目を見て、後は努力が足らないと切り捨てる社会と、組織の力で全員が伸びていこうとする社会と、どちらの人々が幸せになるのか、ここでも考えさせられます。

大会の運営は前回もいろいろと問題がありましたが、今回もおかしなことが多々ありました。日本は9試合行ないましたが、相手は4チームで韓国とは5試合も行ないました。韓国も同様ですが、日本が当たった強豪のアメリカとキューバとは当たっていません。日韓のリーグ戦のようで、両チームとも日韓以外には負けていません。1次リーグで勝ち上がった1位チームと2位チームは2次リーグでは別のグループに分けるべきです。こんなことをするから、アメリカがキューバや日本、韓国の強豪チームと合わない様にする深謀遠慮といわれてしまいます。

開催時期も、他の国際競技との兼ね合いもあるでしょうが、3月よりは10、11月の方が良いでしょう。この期間は球団と選手との契約条件も緩めては如何でしょう。使用球も世界中何処でも同じものにして欲しいと思います。

投手の球数制限とか登板間隔も良く分かりません。投げすぎて肩を壊さないようにとの大リーグ流の配慮でしょうが、投げれば投げるほど調子の上がる投手もいます。野球規定回数の9回は投げさせても良いでしょう。打たれば10球でも交代させられます。調整用の練習での投球まで制限するのは如何でしょうか。アメリカ流の選手を大事にするルールでしょうが、先発投手には連投はさせない、その他の投手は2連投まではよい等と緩和すべきでしょう。WBCでは、統一した独特のルールを適用するのに、経済界や金融関係にはしっかりした管理のルールが適用できないのは不思議な気がします。ベースボールでできて、経済界では何故できないのでしょうか。

このとき、丁度、大相撲の3月場所が終わり、白鵬が優勝しました。相撲は日本の国技ですが、WBCと同様に発祥国の日本人力士が優勝することは最近では殆どありません。相撲は神への奉納から始まったもので、土俵は神聖なもので、競技は単なる格闘技ではなく、格調高くあるべきものと考えられています。しかし、最近では、稽古中に行き過ぎたしごきが行なわれたり、大麻吸引騒ぎが起きたりして、大相撲としての権威が失われています。そして最高の権威者、人格者であるべき横綱の土俵内外での行動に品格を落とすものが多く顰蹙をかっています。日本人でも日本の良き伝統を忘れつつある中で、海外からの人に日本のしきたりに従わせるのは至難な業で、指導者がよほどしっかり教えなければなりません。しかし、指導者自身の教育態度が定まらないので無理があります。子供の教育でも、教育する立場の大人の態度、心がけが大切で、先輩が模範を示さねばなりません。

日本の野球チームがアメリカでも勝てるようになると、日本野球の良さがベースボールに浸透していくのでしょうか。かつてアメリカ大リーグチームが来日したとき、基本に忠実なプレーに感心しましたが、最近はやや雑になっているような気がします。WBCが世界にベースボールを普及させようとしているのであれば、ベースボールが野球に侵食されているのをアメリカでは如何考えているのでしょうか。その一方で、日本の相撲では、外国人も含めて、日本の良き伝統を理解し、礼智信の精神を習得してもらいたいと思います。野球にしる、相撲にしる、スポーツを通じて、日本の文化が世界に少しでも多く理解されていくのは日本人としては誇りに思えます。

WBCも新しいビジネスモデルを作るのも目的の一つで、アメリカ大リーグ業界や選手会が利益を上げられるようにできているそうですが、あまり金儲けに拘ると、大会開催の本質の意義を見失います。優勝した日本には500億円の経済効果があったといわれますが、野球の強いことをベースに新たな事業を考えても良いのではないのでしょうか。今回、日本は3億円の収入があり、半分は野球の振興に使われ、選手関係者は1人、4-500万円の配分となるということです。今後、この大会を続けるならば、アメリカが主催するのではなく、サッカーのように中立機関をつくり世界的に権威のある競技大会にするのがよいでしょう。実績、実力のある日本、韓国の意見を取り入れて、もう少し合理的で世界の多くの人が納得して、楽しめるものにしていけば、永続する競技大会となると思います。そして強豪の日本、韓国に不利になるようなルールの改訂は避けて欲しいと思います。

次の WBC は 4 年後に行なわれることになっています。それまでには経済、社会情勢も大きく変わっていることと思いますが、また野球を楽しませてもらえることを期待しています。

(2009.3.29 SCE・Net 弓削耕)